

世界遺産登録 再チャレンジ

平泉の文化遺産は、平成23年の世界遺産登録を目指して、再チャレンジがスタートしました。このコーナーでは、登録に向けた取り組み状況についてお知らせしていきます。

第3回 推薦書再作成に向けて

3回目の推薦書作成委員会が年内に開催される予定です。次回の会議では、前回話し合われた内容に基づいて主題設定や資産構成について議論が深められ、再チャレンジの方向性が導き出されることになります。

「平泉」のコンセプトや価値について、国際的に正しい評価を得る上でも推薦書の内容が重要であることは言うまでもありません。

現在、文化庁が中心となり県・関係市と連携して、推薦書再作成の論点整理を進めています。また文化庁では、「平泉」の重要な柱となる「浄土庭園の国際的な比較研究」について、国内外の専門家や研究団体との連携体制を整えつつあります。

国際専門家会議についても交渉が進められており、今後さまざまな形で「平泉」の資産の国際的な価値が定められていくことになっていきます。



再提出される推薦書原案について、慎重に審議する作成委員会のメンバー

◎第2回推薦書作成委員会での議論(要旨)

▷平泉は、政治・行政上の拠点といいながら、資産の大部分が、庭園や寺院である。政治・行政上の拠点と浄土庭園や寺院が、どのように組み合わせられているかに特徴がある。

▷政治行政上の拠点という考え方で、顕著な普遍的価値を証明できるかという点に難しい。

▷平泉が出来上がった過程を見ると、浄土思想がなければ、このような形にはなっていない。浄土思想を切り離すことはできない。

▷浄土庭園という限定した見方をすると、京都の庭園等もある。そのように限定化されたものだけで顕著な普遍的価値を証明することは難しい。

▷資産と浄土思想との関連付けについて検討する必要がある。

▷資産全体を網羅できるコンセプトを見いださない限り、前回のままでは受け付けられない。

▷平泉の価値とは何か、じっくり時間をかけて議論し、根本から対応策を検討する必要がある。そのようにしなければ、取り繕いと見なされ、真剣に検討したとは認められない。

平泉を掘る

今年は、池(梵字が池)北・東側の岸、北小島から本堂をつなぐ橋の取り付け部分、導水施設があると考えられる池跡の北西側の3カ所を調査しました。

北側の岸は、昨年度の調査で現地形と異なり大きく県道(中尊寺通り)の北に広がる様子が見られました。今年はその追跡調査を行い、県道から北に16m離れた場所で岸の一部を確認しました。

池東側の調査では、本堂と東中島の正面に位置する所で、岸が池の方に張り出す形で現れました。

北小島から本堂をつなぐ橋の取り付け部分では、本堂跡北翼廊の北西基壇の状況を確認することができました(写真)。

池跡の北西側では、昨年検出した2枚の板と導水路の可能性の高い溝の追跡調査を行いました。板は2枚とも西端が見つかり、長さが4.1mと5.6mあること、また別な板が西側に続かないことも分かりました。こ

発掘最前線⑦

—無量光院跡第20次調査—

の板は何なのか? 今後の課題です。溝の続きは、後世に掘削されたせいか見つかりませんでした。しかし、明治時代に使われた水路も見つかったので、西(上流)側の調査で古い溝が見つかる可能性は残されています。文化財センター 島原弘征



本堂跡北翼廊の北西基壇の状況

特別展 平泉 ~みちのくの浄土~ 仙台展 見学バスツアーの参加者募集

仙台市博物館で開催中の平泉特別展を見学するバスツアーの参加者を募集します。特別展は、中尊寺の国宝仏像をはじめ、全国の平泉ゆかりの貴重な名宝をかつてない規模で一堂に公開し「平泉の文化遺産」をより深く理解する良い機会です。皆さん、ぜひご参加ください。

日時…【第1回】12月12日(金) 10:30~17:00
【第2回】12月18日(木) 10:30~17:00
【第3回】12月20日(土) 10:30~17:00
行程…▷平泉町役場出発(10:30)
▷昼食(各自・高速道路SA)

▷仙台市博物館「平泉~みちのくの浄土~」見学(13:00~15:00)
▷平泉町役場着(17:00)

対象…町民
参加費…無料。ただし観覧料(大人1,100円) 昼食代は各自負担となります。
定員…各先着30人(定員になり次第締め切ります)
申し込み方法…12月3日(水)から申し込みを電話で受け付けます。
申し込み・問い合わせ先
世界遺産推進室 ☎46-2218



江東区民まつりに出展した平泉コーナー

「第26回江東区民まつり」が快晴に恵まれた10月18、19日の両日、東京都立の木場公園で開催され、過去最高の約43万人の人出でにぎわいました。会場の木場公園は24万平方メートルの敷地で、音楽・踊りや囲碁・将棋教室、子ども向けのゲームコーナーなど、さまざまなイベントが催されました。

平泉特産品の陳列・販売コーナーは、17都道府県の35市町村が出展する「はるばるパザール」の一角に設けられました。江東区の鈴木信幸総務課長は、「江東区民まつりのイベントに参加する団体数は年々増え、来場者も増加している」と話していました。

平泉町の参加は今年で8回目。今から13年前、平泉水かけ神輿の実施を指導した富岡八幡宮の神輿総代連合会幹事長・高橋富雄さんとの縁がきっかけで江東区民まつりを紹介され、江東区と交流する会」を平泉町役場内に平成13年結成。以来毎年1回、欠かさず出展してきます。今回も斉藤清寿農林商工観光課長ほか、事務局の5人をはじめ生産・販売業者など総勢23人が、4トラック

ク1台とマイクロバス1台で参加しました。

平泉町のコーナーには「はるばる平泉会」の会員も多く立ち寄ってふるさと産物を買ってほしいとお願いしています。その来場者数は年々増加し、「いものこ八斗汁」300円は、800杯がなんと2日目の昼ごろには完売しました。また出品した商品の米・小麦粉・野菜・酒・リンゴ・ジュース・菓子などの販売も順調で、売り切れが続出するなど大ににぎわいました。

ふるさと平泉会副会長
鈴木 喜佐人



パザールに来場した西村専次ふるさと平泉会長(右端)と同級生の皆さん